

「奇形」を含む医学用語の置き換え提案

分科会アンケートのまとめ

日本小児科学会

用語WG

水野誠司、森内浩幸

- H26年12月本会で、奇形を含む医学用語の置き換えについて提案。
- H28年6月、日本医学会シンポジウム「医学用語を考える～医療者・市民双方の視点から～」にて、「子どもでもわかる説明、親も子どもも傷つかない表現を目指して」を講演
- 平成28年12月15日に小児科学会から、日本医学会分科会126学会に「「奇形」を含む医学用語の置き換え提案」を送付し意見を求めた。90学会から回答、内26学会からは文書でご意見を回答いただいた。

- 背景

- 臨床の現場で患者・家族への説明を行う際に、「奇形」という言葉は非常にきつい響きがあり、精神的ダメージを与え尊厳を損ねる恐れがある。

- 複数の英語用語の訳に「奇形」が当てられている。(次スライド)

- 患者が不快に感じる医学用語を置き換える時代の趨勢

(例:猿線、兔唇、蒙古症、CATCH22など)

小児科学会用語集では【不適切】注釈付きで削除せずに併記)

日本医学会医学用語集に掲載されている「奇形」を含む用語

anomaly	<u>奇形</u>
abnormality	<u>奇形</u> /異常/異常性
defect	<u>奇形</u> /欠損
deformity	異常/ <u>変形</u> / <u>奇形</u> / <u>変態</u> /形質転換/異常性
dysgenesis	<u>奇形</u>
dysmorphism	<u>奇形</u>
malformation	<u>奇形</u>
monster	<u>奇形</u> /奇形体
teratoma	<u>奇形</u> 腫
teratology	<u>奇形</u> 学
Congenital anomaly	先天奇形
Cardiac anomaly	心奇形
Epstein anomaly	エプスタイン奇形
Arnold-Chiari malformation	アーノルド・キアリ奇形

形態の異なる状態を示す複数の英語用語に対して、「奇形」が当てられている。

「奇形」を含む医学用語の置き換え提案 (H28年12月15日)

【置き換えの原則】

「奇形」を含む医学用語は非常に多いため、以下の原則に沿って、個々の用語の置き換えを検討していく。

1. 「奇形」という日本語が充てられることが多い以下の用語について、原則的に右側に示す日本語を充てるようにする。

anomaly 先天異常、先天性〇〇異常、異常

deformity 変形

malformation 形成異常

(註:「形成異常」という日本語が充てられている英語用語に「dysplasia」があるが、こちらの日本語は「異形成」を代表語として区別化を計る。)

代替案)

「奇形」の置き換えとして、字数も音節数も同じである新語、「違形(いけい)」を充てる。

2. terato- を含む用語については、それぞれ以下のように置き換える。

teratoma 奇形腫 → テラトーマ

teratogen 催奇形因子 → 胎児毒性因子

teratology 奇形学 → 先天異常学

3. 臓器名や人名に続いて「奇形」が置かれている用語については、以下のような言い換えをする。

〇〇(臓器)奇形 → 先天性〇〇疾患

(例:先天性心血管奇形 → 先天性心血管疾患)

◎◎(人名)奇形 → ◎◎病

(例:Arnold-Chiari奇形 → Arnold-Chiari病)

4. その他の用語の置き換え例

Dysmorphology 奇形学、異常形態学 → ディスマルフォロジー

5. 以下の語は置き換え候補がまだ十分定まっていない。取りあえずの例を挙げているが、学問的に定着していることと臨床現場で用いることが稀であることから、置き換えないという選択肢もある。

Teratogenesis 催奇形 → 形成異常誘発 又は 形成異常発生
または 催違形

Teratogenicity 催奇形性 → 形成異常誘発性 又は 催違形性
major anomaly/malformation 大奇形 → 大異常 または 大違形
minor anomaly/malformation 小奇形 → 小異常 または 小違形

主なご意見(抜粋)

- 極めて当然の議論であり学会として賛同いたします(REU学会)。患者やその家族への配慮等の点から賛成いたします(SKG学会)。「奇形」をなるべく使わないように、という議論には賛成致します。(SR学会)
- WHOが2001年に制定した国際生活機能分類でも、**マイナスイメージを持つ用語を使用しないように配慮がされています**。日本小児科学会の今回の提案趣旨については、全く異論はございません(RHT学会)
- 患者・家族の心情の精神的**ダメージが強いと考えられる欧語を最優先して、論議することが望ましい**(RHT学会)
- この「奇形」は日本医学会の**各分科会が取り扱う「奇形」を含む疾患により捉え方が異なる**と考えられます。委員らの回答では、「奇形」という言葉がご家族に強い精神的ダメージを与えてしまったとういような臨床上の経験がある者はおりませんでした。よって、**患者・家族を含む社会全体が本当に「奇形」の除外を望んでいるか違和感があった**。
- 「用語」はコミュニケーションの基盤なので、**一律に換えるのではなく、当該「用語」の一つ一つに違和感が生じないような配慮が望ましい**と思います。(NK学会)

- また最近になって流れとして、逆に「奇形」を含む疾患名に変わりつつある「リンパ管奇形・血管奇形」(リンパ管腫・血管腫)もあります。(SG学会)
- 「奇形」も同様に日本語では身体の形が奇妙だという意味が伝わりますが、「anomaly」ではそのようなイメージは浮かびにくいでしょう。(中略)。要するに、意味を直感的に伝える力をもっている日本語の特殊事情ということになります。用語の言い換えをすることは、病気に対する社会のイメージを改善することが期待できます。その一方でデメリットもあり、欧米の用語が持っている本来の意味から外れてしまう、欧米語の用語との対応関係がわかりにくくなる、用語を変更することで過去の文献の検索や引用が難しくなります。
- そもそも用語を変更するということは特段の事情がある場合にのみやむを得ず行うことであり、また必要最小限にとどめるべきことでもあります。古い用語を削除するのではなく、並記して残すことが望まれます (IS学会)

総論に対して寄せられた意見

- 患者家族への配慮による置き換えには総論としては賛同が多数。反対意見はない。
- 削除ではなく併記を望む。
- 診療科による患者家族への心理的影響の差(小児以外では少ない)。患者に影響のある用語を抽出して検討してはどうか。
- 医学的、科学的、社会的根拠を十分に検討すべき。
- 社会的な影響への配慮を望む
- 医学系以外の学会への配慮が必要。
- 日本語の持つ固有の特性(英語では同様の置き換え議論は少ない)

提案1 に対する意見

- 提案1.「奇形」という日本語が充てられることが多い以下の用語について、原則的に右側に示す日本語を充てるようにする。
 - anomaly 先天異常、先天性〇〇異常、異常
 - deformity 変形
 - malformation 形成異常
- 主な意見またはコメント
 - Anomaly も malformation も 形成異常ではどうか(JK学会)
 - これらの用語は置き換えが比較的容易である。むしろ、今まで奇形という訳語を主に使用していたことの方が問題と考える(RH学会)。
- 概ね賛同意見が大多数であり、異議の意見も上記の1件だけであった。英語の語義に対応した訳語であるために受け入れられやすい。

提案1（奇形の代替案） に対する意見

- 提案1「奇形」の置き換えとして、字数も音節数も同じである新語、「違形(いけい)」を充てる。
- 主な意見
 - 「奇形」の置き換えに「違形」を充てる案については、腫瘍学の分野でatypiaの日本語訳として広く用いられている「異型」と紛らわしいとの印象を感じました。音が同じであるため、混乱を招く恐れがあります(NG学会)
 - 「違形」が「奇形」に置き換えるべき用語として適切かどうかは疑問があると思います。(KKS学会)
 - 「違形」で良いのか？という点については患者会も含めた幅広い議論が必要です(SR学会)
 - この代替案に反対します。先天異常は代謝異常なども含む広い概念であり、奇形はそのうち肉眼形態的な異常、と定義しています。奇形と同様に肉眼的な形態を明示しないという観点から、「違形」との代替案に反対します。「違形」は、一見配慮しているようで、あえて造語したにもかかわらず、本質的に奇形と同じ形の違いを明示している点で、改善として不十分と考えます。(SI学会)
 - 奇形に置き換えて「異形」を提案 (HKK学会)
 - 仮に「違形」を採用したとしても、時間が経つうちにこの言葉が現在の「奇形」と同様なニュアンスを持って使われるようになる(MK学会)

提案2 に対する意見

- terato- を含む用語については、それぞれ以下のように置き換える。
 - teratoma 奇形腫 → テラトーマ
 - teratogen 催奇形因子 → 胎児毒性因子
 - teratology 奇形学 → 先天異常学
- 主な意見
 - 「奇形腫」の用語の認知度は高く(もちろん肺原発の頻度が低いですが)、一般的に「奇形腫＝テラトーマ」の置き換えは双方向で理解可能かと思しますので、規約上奇形腫をテラトーマと置き換えてもあまり違和感はないので内容的には大きな問題は無いと思われます。(HG学会)
 - 変更するほどの必然性はない(IS学会)
 - 胎児毒性では形態異常を惹起するニュアンスを表せない(NK学会)。
 - 診断名に用いないものは、そのまま良いのではないか(JK学会)
 - 「異形(いぎょう)」には、普通と違った怪しい姿・かたちをしていることという意味があり、terato-の語源に対応している。異形腫、催異形因子、異形学を提案(NRH学会)。
 - teratogenに先天異常誘発因子を提案 teratogenに先天異形因子、 teratologyに先天異形学を提案(SK学会)
 - 個人について言うのではないので患者に精神的ダメージを与えると考える必要は無い。病名については「奇形」の語を排除するとしても、teratogen や、teratology などについては「奇形」の語を残してもよろしいのではないか。(MK学会)
 - テラトーマに同意できません。奇形腫の用語で、例示のごとく問題となった話を聞きません
 - 催奇形性はそのまま(学問的に定着していることと臨床現場で用いることが稀であることから、置き換えない)

提案3に対する意見

提案3. 臓器名や人名に続いて「奇形」が置かれている用語については、以下のような言い換えをする。

- ○○(臓器)奇形 → 先天性○○疾患 (例:心血管奇形 → 先天性心血管疾患)
- ◎◎(人名)奇形 → ◎◎病 (例:Arnold-Chiari (anomaly) 奇形 → Arnold-Chiari病)

主な意見

- 変換後の用語の意味が認識できるため、妥当と思われました。(SG学会)
- 先天性心血管疾患ではファジーである。(Q学会)
- 提案1の原則に準拠すればArnold-Chiari奇形はArnold-Chiari形成異常で良いのではないか。(NR学会)
- 先天疾患は一部の診療行為では、保険診療上は適応疾患となっており、置き換えにより保険診療の適応からはずれないよう、病名については先天異常が望ましい(SI学会)
- 先天性○○異形、Arnold-Chiari 異形を提案 (HK学会)
- 「脳奇形」を心奇形の例にならって「先天性脳疾患」と置き換えるのは、意味が不明瞭となる(形態異常か機能異常か不明である)ため不適切であり、「脳形成異常」がより適切と考えます。(SB学会)

提案4, 5に対する回答

提案4.

Dysmorphology 奇形学、異常形態学 → ディスマルフォロジー

提案5

teratogenesis	催奇形	→ 形成異常誘発 または 形成異常発生 又は 催達形
Teratogenicity	催奇形性	→ 形成異常誘発性 または 催達形性
major anomaly/malformation	大奇形	→ 大異常 または 大達形
minor anomaly/malformation	小奇形	→ 小異常 または 小達形

• 主な意見

- 個人について言う用語ではなく患者にダメージを与えると考えerる必要はないので置き換えは不要と考えます。(MK学会)
- 催奇形、催奇形性に関しては、薬剤の添付文書などにも及ぶため、置き換えにはさらに議論が必要と思われる(SS学会)
- 催奇形性はそのま(学問的に定着していることと臨床現場で用いることが稀であることから、置き換えない)(SKG学会)
- 日本語に置き換えるよう努力していただくのがよいかと存じます。
- 催奇形 → 先天異常誘発性。大奇形; 小奇形 → 大異常; 小異常 以上を提案します(SI学会)

- dysmorphology (カタカナではなく)日本語が望ましい。(IKY学会)
- 大異形、小異形を提案(HK学会)

まとめ

- 患者の心情に配慮する置き換えの趣旨にはご賛同いただく意見を多数いただきました。対象用語の選択、置き換えによる影響等に慎重さを求める複数の意見をいただきました。
- 各論として、anomaly、deformity、malformation に当てられている「奇形」を、先天異常、変形、形成異常を置き換える提案についてほぼ異論がない。
- 疾患名としての、〇〇奇形を、先天性〇〇疾患、◎◎(人名)奇形を◎◎病と置き換える提案について異論が少ない。
- 患者や家族への配慮からの用語置き換え提案について、今後も啓発と提案を相談させていただきたいと思います。